

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800262		
法人名	株式会社ストーン		
事業所名	グループホームさんさらな		
所在地	愛知県名古屋市長区山下通5-29-2		
自己評価作成日	令和5年9月16日	評価結果市町村受理日	令和5年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390800262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター
所在地	名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1-902
訪問調査日	令和5年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様に特に制限を設けずに生き生きと生活をして頂けるように支援しています。また、「夢かなえプロジェクト」として個人個人の希望をかなえられるように努めている。毎月季節を感じて頂けるようなイベントを企画して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境豊かな瑞穂公園(現在、アジア大会に向け工事中)に隣接するホームは、利用者にとっては樹木に囲まれた安らぎの空間である。経営理念である「ALL For ALL」すべては特別な人のために、を掲げ自宅と同様に自由に暮らせることを運営方針として介護に取り組んでいる。利用者が他人に迷惑をかけなければ飲酒、喫煙(可能場所のみ)、携帯電話など特に制限を設けていない。「夢かなえプロジェクト」野球観戦、グルメ等希望が叶えられるよう取り組んでいる。コロナも5類変更に伴い、大正琴、フラダンス、ヨーヨー実演など、さまざまなボランティアの受け入れを行っている。利用者も公園散歩、コンビニ、喫茶店など地域と交流を開始している。リビングは家庭と同様にあまり飾らず、落ち着けるようにしている。居室やトイレはスタッフが清掃をし清潔で居心地の良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月会議で唱和して確認している。	「ALL For ALL」を掲げ利用者の希望や期待に沿った介護の実現を目指している。経営理念は、会議や研修で周知され夢叶プロジェクトとしてその実現を図っている。会議前に経営理念を自書して提出するなど工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りへの参加	日常の公園散歩などは支障のない範囲で継続している。町内会長からも、地域行事への参加などを勧誘され、今年の夏は祭り見物なども実施し、徐々に体制を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき支援センターの依頼で、認知症の方を介護されているご家族へ講演しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度のペースで開催している。	前年度は書面会議を行ったが今年度は2ヶ月に1回いきいき支援センター職員などの参加で集合会議を行っている。会議ではホームでの取り組み説明や質疑、応答、地域情報の提供などあり運営に活かしている	ホームへの理解、協力を得るために、老人会会長、複数の家族等、多数の方々の出席を要請されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所とは必要に応じて連携を取り協力関係を築くよう努めている。	区役所やいきいき支援センターなどとは事務連絡等の機会を生かして交流を図っている。コロナ禍以降、集合研修や会議などの機会が少なく、ネットなどを活用して情報連絡、収集等、連携強化をめざしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	四半期に一度、委員会を開催している。研修を定期的に行い職員の理解に努めている。玄関の施錠は行っているが、いつでも外出できるように心がけている。	身体拘束防止義務を運営規程18条に、対応を利用契約書6条に定め、四半期に一度の委員会や定期的な研修等で確認している。職員の入れ替わりが多いので職場会議等で、日常の介護を振り返り検証し、身体拘束防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	四半期に一度委員会を開催、非虐待について同意書を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまりできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明を行い、疑問点に関して質問を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行い、結果を踏まえ日々の支援に反映している。	利用者には日々の介護の中で思いや希望、要望を汲み取るよう努めている。毎年、定例的に家族アンケートを実施し、家族等の意見の把握に努め、問題点などは会議で検討し、日々の介護に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書のフォームをつくり、容易に提案できる環境にある	管理者は日頃から、また職員会議等でも意見や提案等を聞く機会を設けている。提案された意見などは検討し運営に反映させている。職員会議に参加できない職員には提案書が用意されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回賞与のタイミングで自己評価、管理者との面談を行い、賞与額を決定している。年に1回の昇給の機会を設け確実に昇給する仕組みを採用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人の研修担当者が研修計画に基づき、研修を行っている。全体の物と個別のものとのカリキュラムを分けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者交流会などに管理者・職員等が参加し、他事業者との情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ず本人・ご家族・サービス事業者等と面談を行い、要望や今後考える事柄等を話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事などを聞き出し、できることは支援している。できない事に関しても、他事業者を紹介し、解決を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心配事などを聞き出し、できることは支援している。できない事に関しても、他事業者を紹介し、解決を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加はもちろん、他の入居者の支援なども本人の気持ち次第で行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の通院なども一方的にこちらが行うのではなく、できる限りご家族の方も同伴してもらい、情報共有・現状把握等を行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人関係が途切れないように手紙のやり取りや電話、買い物同行など外出の機会を設けている。	コロナも終息に向かい面会や外出も緩和されたが、3年も続いたコロナの影響で馴染みの人や場所との関係継続が疎遠になっている。手紙や電話、スマホのライン通話等も活用して交流復活、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	苦手な事や苦手な人を把握し、遠ざけるのではなく仲を取り持つよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからコンタクトをとる事はないが必要があれば行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、無理強いはいしない。	職員等は利用者の日常生活の行動や言動から、思いや意向を把握し、希望を実現できるよう配慮している。また要望が困難な利用者には、利用時の情報や家族等との会話の中にもヒントがないか留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を聞き取る。 普段のコミュニケーションの中で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者および管理者代理が毎日各フロアを巡回し日々の変化を把握し共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聞き反映するようにしている。	介護計画は利用者や家族の要望等考慮して、ケアマネージャーを中心に、モニタリング、ケア会議を行い現状に即した計画を策定している。状況が変化した時は家族等に同意を得て随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議に活かし検討するようにします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い出しにスーパーへ行く散歩を兼ねて近くのコンビニへ行く		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医師に往診を依頼している。診察前には必ず医師と本人・家族と今後の医療方針等を確認し、本人・家族、医師、グループホームとで意思確認をしている。	施設の協力医療機関を、大部分かかりつけ医としている。歯科医は毎週、内科医は月2回の往診で健康管理をしている。受診結果は家族等に報告し共有している。以前からのかかりつけ医の受診希望があれば、外出同行サービスで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を看護師に連絡を取り、適切な連携を図っている。往診には看護師も同席し、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間看護師と連絡が取れる状態にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意をもらい、必要に応じて再確認する。	利用者や家族に対し契約時に重度化についての確認及び指示書を説明し、看取り介護等についての医療体制や連絡体制等を説明、同意を得ている。看取り実績もあり協力医、訪問看護師、職員が終末期対応を連携して行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成してあるが、訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練(通報訓練・消火訓練)を実施している。 地域運寧推進会議で報告をしている。	施設の消防計画を作成しており、年2回、昼間及び夜間を想定した、利用者参加の避難訓練を実施している。自治会や地区自主防災との連携もあり、年々協力関係が強まりつつある。災害備蓄等も3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の性格や背景を重視し、言葉使いを変えたりしている。 間違いをたやすような声掛けをしないように心がけている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応、人前で恥ずかしい思いをさせる対応、強い口調等での対応等が無いように心がけている。写真は家族から同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○して下さい」ではなく、「○○してもらっていいですか?」と断ることができるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の状況に合わせて、一日を過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご自身で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を重視し、お皿を洗ったり、配膳してもらっている。	コロナ禍は自粛していたが、最近は利用者と職員は食材の買い物に一緒に出かけている。調理は職員が中心で行い簡単な調理や配膳、後片付けなど利用者が手伝っている。季節ごとの行事食やおやつ作りも楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がメニューを入居者様に合わせて考えている。 決まった時間以外でも水分摂取を促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを行っている。入居者の状態に合わせて声掛けや支援を行っている。歯医者・歯科衛生士による治療・口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄してもらるように声掛けの時間を決めおこなったり、適宜声掛けを行っている。 定例会議やカンファレンスで日々の体調の変化や認知症の進行にも対応するようにしている。	排泄パターンを記録し定時誘導、声かけ、での対応を優先している。その結果おむつ利用は1割以下となっている。尊厳の維持には排泄の自立は重要なので職員も理解して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や発酵食品を定期的に摂取してもらっている。適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが、特に順番等は決めずに支援している。限られて時間の中ではあるが、ゆとりをもって楽しんでもらっている。	週2回曜日を決め入浴を行なっている。当ホームは3ユニットあり、ユニット毎に浴室があり日曜以外は毎日入浴を行っている。午前、午後で9人の入浴介助を実施、個浴実施、入浴時間の余裕等は確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別な事情がない限りご自身のタイミングで休んでいただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師との情報共有、必要に応じた指導等も行ってもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備を一緒に行ったり、片付け、掃除、縫い物をして頂いたりする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や、喫茶店へ行ったり、ご家族との外食などを行っている。	コロナも終息に向かい制限されていた家族等との外出もできるようになり、外出機会が増加している。施設でも近隣の瑞穂公園散歩、買い物、喫茶店利用など職員ができる限り対応に努めている。今後は外出ボランティアの利用等も考えている。	コロナの影響で外出機会が減少し在室に馴れてしまったので、歩行力が減少しないように積極的な外出支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて本人にお金を持ってもらっている。そのほかいつでもつかえるように事務所で預かる事もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やテレビ電話などご希望に応じてやり取りができるように支援している。希望により毎晩就寝前にご家族と電話をする機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの定期的な清掃を行っている。季節のイベントの飾りつけをしたりしている。	リビングは落ち着いた雰囲気でも過ごせるように、家庭と同様に飾り付けは華美にならないようにしている。温度、湿度、音、光等の管理は、管理者はじめ職員がきめ細やかに対応している。トイレは職員が定期的に清掃を行っており清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、畳スペースを設け、場面を変えて気持ちを切り替えてもらえる環境を整備した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなじみの家具や物をできる限り持参してもらおうように勧めている。	各個人の居室への家具等の持ち込み品は、個人の選択にまかせている。部屋の清掃は、サイクルを決め職員が実施するが、利用者にもお願いすることがある。部屋の装飾も、利用者の好みに任せているが以前に比べてシンプルな部屋が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体に危険のない限り、自由にして頂くよう見守りしている。		